



日本学術会議とブルガリア科学アカデミーとの二国間会議

「持続可能性に向けた日本とブルガリアとの共同研究」

“Bulgaria-Japan Research Collaboration for Sustainable Development”



日時・場所：平成 25 年 3 月 19 日（火） 日本学術会議 会議室

概 要

日本学術会議は、平成 25 年 3 月 19 日（火）、ブルガリア科学アカデミー（Bulgarian Academy of Sciences : BAS）との二国間会議「持続可能性に向けた日本とブルガリアとの共同研究」“Bulgaria-Japan Research Collaboration for Sustainable Development” を開催しました。

日本学術会議はブルガリア科学アカデミーとの間で、平成 24 年 3 月に両国の科学技術の振興を図ることを目的とした協力協定を締結しました。本協定においては、エネルギー資源とエネルギーの効率化、ナノサイエンス・新素材・新規技術、バイオメディシンと生活の質の向上、気候変動とリスク等がフォーカスしたい分野として掲げられています。この協力協定を受けてブルガリア科学アカデミー側から、日本との共同研究プロジェクト候補が具体的に打診されました。

今回の二国間会議は、これらのプロジェクト候補のうち、特に持続可能性に関係している研究プロジェクトを中心に、ブルガリア科学アカデミーから 8 名の研究者を招へいし、また、関係する日本国内の研究者や、ブルガリアとの間で関係の深い日本の企業・団体にもご参加いただき、協力協定具体化のキックオフとして、開催しました。

午前中の全体会では、大西 隆 日本学術会議会長及びブルガリア科学アカデミー Stefan Todorov Hadjitorov 会長顧問の開会挨拶に続き、Georgi Vassilev 駐日ブルガリア共和国特命全権大使及び伊藤 誠 特命全権大使（第 5 回アフリカ開発会議(TICAD V)担当兼安保理非常任理事国選挙及び安保理改革（アフリカ諸国）担当）（前駐ブルガリア共和国日本国特命全権大使）より来賓のご祝辞を頂きました。

その後、日本とブルガリアとのこれまでの交流・共同作業の事例として、株式会社明治 樋口 靖夫 乳製品ユニット市乳事業本部ヨーグルトマーケティング部 1 グループ長より、食品事業における事例として日本におけるヨーグルト事業の経緯についての発表、三菱重工株式会社 阿部 伸一郎 原動機事業本部原動機輸出部企画・発電事業グループプロジェクトマネージャーより、エネルギー産業における事例として京都メカニズムの共同実施としてのブルガリアにおける風力発電プロジェクトについての発表がありました。引き続き、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）齋藤 潔 国際事業部参事より、日本とブルガリアの共同研究に対する支援スキームの紹介がありました。それぞれの内容について、ブルガリア及び日本の研究者から熱心な質問が相次ぎました。

このほか、矢崎総業株式会社からは製造業における事例について、徳洲会からは病院の事例について紹介パネル展示がありました。

午後は、分科会 A「持続可能な開発」、分科会 B「持続可能な生物資源の管理・活用」に分かれて、それぞれの分科会において 3 件、計 6 件の研究計画について、ブルガリア科学アカデミーの担当研究者から、共同研究要望のある研究事業・研究計画案が発表され、それを受けて日本側の関係研究者からコメントを行い、その後将来の共同研究等の可能性について討議が行われました。

分科会終了後、再び全体会場に参加者が集まり、ブルガリア科学アカデミー Damijan Nikolov Damyanov 副会長が閉会の挨拶を行い、会議が終了しました。

今回開催された二国間会議により、ブルガリアと日本の研究者・研究機関の間の橋渡しがなされ、また、相互の理解が深まる契機となりました。日本学術会議としては、今後の両国の研究者・研究機関との間の研究交流が活発になることを期待しています。